

諦崇寺報

諦崇禪寺 発行
藤井崇文 編集
〒631-0065
奈良市鳥見町
2丁目28-10
0742(37)2569
www.rittouji.jp

祖山傘松会

永平寺には様々な寮舎(部署)があり、雲水(修行僧)は数ヶ月置きに転役して、自身を磨くと共に永平寺の維持運営に務めます。その寮舎の一つに「祖山傘松会」があり、そこでは毎月、A五型で約二〇頁ほどの冊子『傘松』を発行しています。内容は永平寺に関するもの全般で、法要及び行事の記録、不老閑覧下(永平寺住職)の動静、永平寺をお開きになった道元禪師の著作解説から雲水によるエッセイまで、幅広く掲載しています。

傘松



私は永平寺二年目の春、傘松会に転役しました。永平寺へ上山する際、提出した履歴書に「特技、パソコンと写真」と記入したのが影響したのかも知れません。

傘松会は、大きなモニター付きのパソコンや、当時はまだ珍しいデジタル一眼レフカメラがあって、「ここは本当に永平寺なのだろうか?」と二年目の寮舎からは想像もつかない光景に驚きました。まさか永平寺に来て一ポイント(〇.三五ミリメートル)にこだわった編集作業をするなんて思いもありませんでした。

基本的に、どの寮舎にいる雲水も晴天坐禅、朝課(勤行)、小食(朝食)に随喜(出席)してから、各寮での公務(業務)に当たり、夜は僧堂での坐禅に随喜します。

朝の行事から傘松会に戻り、パソコンを前にして作業するのは不思議な気持ちでした。皆様の中にも「それは修行なの?」と疑問に思われる方もあると思います。

けれども、道元禪師は「行住坐臥(日常の行い)全てが仏道である」とお示しになりました。その教えに従い、修行を邁り好みせず、精進する、それが永平寺であり、各寮舎でありました。

行事を撮影する時は、長作務衣(動きやすい法衣)を着て、腕に腕章を付けます。他の雲水とは違う服装で法要に参加して、行事の邪魔にならない様にシャッターを切るのは、普段とは違う緊張感があった新鮮でした。

法要の一つの場面ごとを訪れるシャッターチャンスは本当に一度きりです。それを逃さない為に行事の差定(進行)や人の動きを事前に覚えておかねばなりません。そうすると各配役の動きを俯瞰的に眺める事が出来るので、法要を学ぶのにも役立ちました。

永平寺の安居(修行)を終えて数年が経ちますが、毎月送られてくる『傘松』を読むと、かつての日々が懐かしく、気が引き締まる思いがします。傘松会に転役した当初は「なんか永平寺らしくない寮舎だなあ。」と感じましたが、今となっては、道元禪師の教えを実践する寮舎であり、曹洞宗根本道場の姿を伝える大切な寮舎であったとしみじみ思います。

永平寺の生活を説明するには、どうしても難しい用語を使わざるを得ず、皆様にお話しするのを躊躇していました。これからは寺報という形で少しずつお伝えしたいと思えます。

烏鶺沙摩明王

トイレの神様

昨年の紅白歌合戦で兵庫出身の植村花菜さんが、お祖母ちゃんとの思い出を綴った「トイレの神様」を歌いました。「トイレを綺麗に

掃除すれば、女神様みたいなべっぴんさんになれるよ。」と教えられ、毎日ピッカピカに掃除したという素敵な歌です。



寺院では、トイレを東司と言います。寺院の根幹となる七堂伽藍の一つに教えられ、僧堂や浴司(風呂)と共に三黙道場の一つでもあり、「行住坐臥の全てが仏道」の教えを実践する、立派な修行の場所でもあります。

東司には、不浄を転じて清浄とする力を持つ「烏鶺沙摩明王」が祀られています。烏鶺沙摩はインド神話における火神ウチュシマの梵名。明王は仏・法・僧の三宝を護持する諸尊であり、多くは忿怒のお顔をされていますが、持ち物や身なりは菩薩とさして変わらず、如来の化身とも言われます。また烏鶺沙摩明王は、髪が火焰の如くなので、火頭明王とも呼ばれます。

僧院では、用を足す前後に必ず三拝して、次の偈文を唱えます。

「左右便利、当願衆生、
掃除穢汚、無淫怒癡」

「用を足すにあたり、全ての生あるものために、汚れを除き、貪り、怒り、愚かなる三毒が無くなるように祈願する。」という意味です。

用を足す行為は個人的なものですが、それだけに留まることなく、衆生救済つまり生あるもの全てを助け導く行為にまで押し抜けて考えるのです。その覚悟を持って用を足さないという教えです。

東司には烏鶺沙摩明王をお祀りしている訳ですから、毎日徹底的に掃除します。イギリスのあるホテルでは、新入社員教育としてトイレ掃除をし、綺麗に仕上げた証として便器の水を飲んで見せるという話を聞きました。永平寺はそこまでではないですが、それに近いところまで磨き上げます。

間違いないトイレは家の一部であり、会社の一部であり、学校の一部です。私たちの人生の一部であると言っても良いはずです。そして、用を足すという個人的な行為だからこそ、私たちの心のありようが如実に表れます。

道元禪師が著された『正法眼蔵』「洗淨」の巻には、「廁屋は仏道の道場であり、真理に出会う一つの場である。」と述べられています。その真理とは何か、皆様それぞれの心にあるトイレの神様はどんなお姿か、是非とも想像してみたいと思えます。

あとがき



昨年、諦崇寺は永平寺御直末となりました。総代様

を始め檀信徒の皆様、各寺院の住職様のお力添えのおかげです。私一人では成し得ない事が今後もあると思えますが、「寺と住職を育てる」お気持ちで見守っていただければ幸いです。

崇文 拜

栗東寺ホームページ
<http://www.rittouji.jp/>

